

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

2001

夏

6月1日発行(季刊)



## 「安西光陽」語録集

### —お花は友だち—

- ★客に喜んでもらえるように心を配る亭主と  
亭主の心配りを感謝する客で一座が成りたちます。
- ★切り落した一輪の花。同じ花器におさめなくとも  
適材適所、洗面所や自室などに挿せば花は生きます。
- ★人生は盥(たらい)の水と同じ。かき寄せれば水は向うに  
行き、向うにやると水は手もとに集まってきます。

弥生三月の終わり頃、香川の茶華道界の重鎮・安西光陽さんが106才の天寿を全うしてご逝去。茶華の美の世界に残したものは「踏みだす勇気とやさしい感謝」。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

特集 あ・うんの数寄講座 第2回【花でもてなす茶の湯】小堀宗実氏・林屋晴三氏  
インタビュー 東山魁夷画伯の版画などを寄贈 山下富生香川県文化会館館長  
好評連載 美藻庵点描／Oh! 茶Gal／喫茶居  
6月から8月までの茶華道・イベント情報を掲載

第一回は小堀宗実氏、林屋晴三氏を迎えて

平成十二年十月三日  
日本文化のエッセンスを探る連続セミナー

## 「あ・うんの数寄講座」

【花でもてなす茶の湯】花と心を通わし、人と時を重ねる

林屋 私が小堀宗慶宗匠と出会ったのは昭和二十年代後半でしたが、親しくなつたのは宗慶宗匠が五十代、私は五歳年下ですから四十代後半だつたと思ひます。非常に心を通わせて昵近するようになり、いつの間にかもう三十年近く経ちました。宗匠いわく、いちばん多く宗慶宗匠のお茶事に招かれたのは私ではなかつたかといふことです。ご子息であり、今日の対談そのなかでも大変印象に深く残つているのは、宗慶宗匠が還暦を迎えたといふことで、一年を通して、毎月いろいろなお客様を招いてお茶事をなさつたときのことです。ご子息である小堀宗実宗匠は、終始一年間、そのときに水屋をお務めになりました。「実はこうやって一年間、一月から十

「あ・うん」の第2回目となる本講座は、21世紀の元旦より遠州茶道宗家13世家元を継承された不傳庵・小堀宗実氏と林屋晴三氏の対談形式で行われました。

当日は小堀宗以副家元として、小堀宗慶家元の茶花についてスライドを見ながらのご講演で、会場からも大変ご好評を頂きました。今回の再録は誌面の都合で恐縮ですが茶の湯のお話を中心に抜粋させて頂きました。



小堀宗実  
遠州流茶道宗家  
第十三世家元

林屋晴三  
美術評論家  
東京国立博物館名誉館員

二月の歳暮までお茶事を行うのは、息子に自分のお茶を伝えておきたいからやるんだ」というようなことを宗慶宗匠はおっしゃり、「私は「さもありなん」と大変嬉しく思つた覚えがござります。とにかく、三十年ほどの間に三十回ぐらいい宗慶宗匠のお茶事に伺つてきただすが、「ああ、なるほど、こういうことなのか」というように、毎回深く教えられることがあります。そのとき、ここにおられる宗実宗匠はすべて水屋をお務めになつたわけですから、襖を隔てて主である宗慶宗匠と、客であるわれわれとの対話も、呼吸も、すべてご存知なわけです。

そのなかでも大変印象に深く残つているのは、宗慶宗匠が還暦を迎えたといふことで、一年を通して、毎月いろいろなお客様を招いてお茶事をなさつたときのことです。ご子息である小堀宗実宗匠は、終始一年間、そのときに水屋をお務めになりました。「実はこうやって一年間、一月から十

えどもみだりに使うことはできない。そのとき、宗慶宗匠ご夫妻と私とがお茶事にわせていただき、お茶事をさせていただきました。ようこそおいでくださいました」とあり、非常に素晴らしいお茶をなさいました。そういううちに、宗慶宗匠が五十年代、私は五歳年下です。お父様のお茶についてどのように印象をお持ちですか。

小堀 やはり、お茶というものは、まずあらゆる巡り会いの場であると思います。そこは人と人との巡り会いでもあるでしょうし、ものとものとの出会い、あるいは、人とのとの出会い、そういう様々な巡り会いのある場所だとということですね。そこに、いまのお話のように、常に「想い」というものがないといけないとと思うんです。ともすればお茶会というの大寄せが多いですから、ただお茶を差しあげて、道具を見ていたら、どういうことが残念ながらほとんどのですが、父が還暦のときのお茶事で私に伝えようとしたのは、お道具ももちろん大事、すべて大切だけれども、まずはそこには想いがある。お客様をお迎えする心がある。それが大事ということを伝えかたのだと思います。

林屋 茶の湯者である小堀宗実の、あれが出发点でしたね。それ以前は遠州宗屋というお家に生まれて、自らお茶の稽古もなさつていただけれども、茶の湯者とはどうあるべきかということを、あのときまさに徹底して学ばれたということでしょう。

小堀 家元として、こうあらねばならないというお茶、一つの格式、そういうものは当然あると思うんですが、そこをもう一つ飛び超えた世界がお茶にあるのだということを本当の意味で知りました。そして、自分が心底お茶を好きになつたと思える、そういうきっかけを父の茶事で与えてもらつたと思っています。

「本日父の許しを得て、初めて成趣庵を使わせていただき、お茶事をさせていただきます。ようこそおいでくださいました」として、来る二〇〇一年の元旦をもつて、非常にけじめの立つたことをなさる。そして、来る二〇〇一年の元旦をもつて、非常に素晴らしいお茶をなさいました。そういうように、親と子ではあるけれども、やはり家元とその弟子という姿勢で、非常にけじめの立つたことをなさる。そういふなかでお育ちになった宗実宗匠ですが、お父様のお茶についてどのように印象をお持ちですか。

小堀 やはり、お茶というものは、まずあらゆる巡り会いの場であると思います。そこは人と人との巡り会いでもあるでしょうし、ものとものとの出会い、あるいは、人とのとの出会い、そういう様々な巡り会いのある場所だとということですね。そこには、それを父は教えたかったのだろうと思します。以降それがあつたおかげで、お茶会のときにお客様に何かをご案内するようなどきでもずいぶんと変つたようになります。ただ通り一ぺんの説明ではなくて、相手の呼吸を感じて、どういうふうにそれに応えていくかというようなことを学んだ気がします。

**林屋** 茶席でお父様がお点前をなさり、私は座つているだけで何も語らなくても、言葉を必要としないぐらいに、この講演会のタイトルにあるような阿吽の呼吸がいつの間にか持てるようになっている。阿吽の呼吸というのは言葉としてはよくあるけれども、実はなかなかそういうところへは行けない。でも、宗慶宗匠との関係においては、自分は何かそこまでできたような気がします。その原点は、やはり想いが双方で通じ合うということです。その想いを表わすには、先にお話したような素晴らしい炭点前もあるし、いろいろあるでしょうけれども、なかでもいちばん想いを込め、そして、一期一会と言いますか、そういうものを象徴するのが、私は茶室の花だと思っています。花というのは、無言のなかに亭主の心をお客様に伝えている。初座を終え、中立ちの間にしつらいをすませて、後座の花を入れるときというのは、亭主としては最も緊張感のある瞬間です。お客様がにじりを開けたとき、亭主に代わって最初にお出迎えするのが花ですからね。

私はいろいろなお家元にお茶事の招きを受けて花を拝見してきましたけれども、宗慶宗匠の茶席の花というのは、席に臨んだ方はどなたもがただひたすら感動するというくらいに、心に響く、素晴らしい花を生けられる。あまりにも決まりすぎていて、私のことですから、いつも「お家元の花は決まりすぎている。あれをもうちょっと崩したらどうか」と言つたことがあります。でもやはり、あの空間のなかでは決まらないと駄目なんですね。決めたあと、さらに何かより深い風情が漂うというところまで宗慶宗匠の花はいっていきます。誠に素晴らしい場面にたくさん遭遇してきました。

ところで、宗慶宗匠は花を生けられる

ときには、頭の中で絵がおありなんでしたよ

がそれぞの茶会のときには何を思つて何を感じたか、そういう感性だと思います。

たい。私は花がいちばん気持ちを受け継ぐことができるものだと思います。

**小堀** 最近でこそ父が「こういう椿」と言ふと、私もその感じがわかるものですから、庭の椿を探るときでもだいたい任せられ切っていますけれど、以前は父がたくさんあるなか、自分で鉢を入れていました。

ですから、切ったときにはもう決まっていると思います。

**林屋** 茶室の花というのは、絶対にそういうものだと思う。花入はすでに想定されていますから、花を切るときには、もう決まっているということは実によくわかります。

お父様と宗慶宗匠の花を拝見してきましたが、やはり先ほどから言つている頭で生けた花は駄目なんですね難しいです。ものすごく難しいけれども、しかし花が決まったときのお茶事ほど、亭主として楽しいことはないんですね。お茶席の花といふのは、客と心を通わせた、想いがないといけない。

## 中 略

# 美藻庵点描 四、下地窓



林屋 千利休は、「数寄とは人に違えて成すこと」とおっしゃっている。つまり、小堀宗慶宗匠は、現代においてもつて切っていますけれど、以前は父がたくさんあるなか、自分で鉢を入れていました。ですから、切ったときにはもう決まっていると思います。

特にお茶の点前ですと型というものが存在しているわけですが、お茶の花といふのは、いわゆる型がないわけですね。型がないから、たとえば父がこのお茶事のときの、こういうお客様のためにと生けている、その気持ちを感じ取るようになつてゐるんです。そして、あれほど強烈な個性のあるお父様を持った宗慶宗匠が、いかに宗慶宗匠から学びつつ、またお父様から離れたところで自分の数寄を生きていくのか、そこが大変大切なところであり、また、楽しみにしております。

数寄屋には、通風というよりも室内外から見て、形の良い窓を意匠窓として設けることが多い。その中の一つに「下地窓」がある。

これは、別名塗さし窓、塗り残し窓、葭窓、かきさし窓、助枝窓などと呼ばれる窓を見て、形の良い窓を意匠窓として設けてきて、頭で生けているとご批評いたいた花というのは、撮影用に生けているものなんですね。一方で、最後のなどはお客様のために生けている花なので、まったく仰せの通りであつて、やはりお客様に対する心入れ、気持ちが入つてゐるかいなかつたんでは、花を通して見えてくるということですね。

父は元気なんですが、私は二〇〇一年元旦から遠州流の十三世家元を継承することになりました。何を受け継いでいくかということについては、やはり一つには、家元としての流儀をきつちりと受け継いで、後々に伝えていかなくてはと思うので

林屋 千利休は、「数寄とは人に違えて成すこと」とおっしゃっている。つまり、小堀宗慶宗匠は、現代においてもつて切っていますけれど、以前は父がたくさんあるなか、自分で鉢を入れていました。ですから、切ったときにはもう決まっていると思います。

特にお茶の点前ですと型というものが存在しているわけですが、お茶の花といふのは、いわゆる型がないわけですね。型がないから、たとえば父がこのお茶事のときの、こういうお客様のためにと生けている、その気持ちを感じ取るようになつてゐるんです。そして、あれほど強烈な個性のあるお父様を持った宗慶宗匠が、いかに宗慶宗匠から学びつつ、またお父様から離れたところで自分の数寄を生きていくのか、そこが大変大切なところであり、また、楽しみにしております。

# 東山魁夷画伯の版画などを寄贈

—すみ夫人から県へ—

さる四月六日東山魁夷画伯（一九〇八～九九）の夫人すみさん（八十二）が県庁に真鍋知事を訪れ、東山画伯の版画など二四九点の寄贈目録を贈られた。県は新たに東山魁夷美術館を建設し、これらの作品を収蔵、展示すると伝えられています。

東山画伯と香川県との関係などについて山下富生香川県文化会館館長にお聞きしました。

先ず東山画伯についてお聞きします。一般的には文化勲章を受章された日本画界の重鎮で、新宮殿や唐招提寺の障壁画を完成されたことで有名ですが、画壇における画伯のことなど少し説明ください。

山下 画伯が画壇へデビューされたのは東京美術学校（現東京藝大）在学中の昭和4年第10回帝展に初出品した「山国の秋」（戦災により焼失）が入選されてからです。17年の第5回新文展出品作「南方樂土」は、なぜこの作品を特選にしないのかといつた論評がある美術誌に掲載されたほどであります。しかし、本格的デビューは、22年の第3回日展出品作「残照」が特選に入り政府買上げとなつたときからではないでしょうか。この作品を描いてから風景画家として立つことを決意したといわれております。25年第6回日展で初めて審査員をつとめられたのもに出品作「道」によつて画壇的にも社会的に認められるようになります。風景画家として画壇に認められたのは39歳であります。その後の画伯の業績には瞠目すべきものがあります。日展へは欠かさず出品し、30年第11回日展出品作「光昏」に

に輝かれ、人々は「現代日本画壇の最高峰」とか「国民画家」と呼んで画伯の業績をたたえられています。

その高名な画伯と香川県とはどんな縁で結ばれていますか。

よつて日本芸術院賞受賞、また49年には日展理事長に就任し、我が国最大の美術団体を率いることになります。このほか皇居新宮殿の壁画など公的な性格を持つ制作、北欧やドイツ、オーストリア、中国など海外に取材した一連の作品、10年の歳月をかけて準備と制作に全力を傾けた唐招提寺障壁画の制作など晩年に至るまで間断のない精進を重ねられておられます。そして文化勲章をはじめ数々の褒章

山下 檜石島をふくむ塩飽諸島は瀬戸内海の海運の要衝であり、平安の昔から強力な水軍の根拠地として知られています。なかには幕府直属の御用もつとめる「人名」という位階をもつて家柄に生まれ、東山姓もそのなかの一つであります。東山画伯の祖父に当たる東山新吉は幕末の頃、櫛石島を出て江戸に向い「榎本武揚」の知遇を得るかたわら廻船業を営み、家運の隆盛を図られておられます。当県は東山画伯にとって「祖先の地」ということになります。

奥様はたくさんのお品などを寄贈くださいたそうですが、どうしてこのようになるとになったのでしょうか、総点数や代表的なものの画題などをお聞かせください。

山下 奥様は前々から「東山家のルーツは櫛石島にあり、香川との縁を大切にしていきたい」と申されておられました。このたび「香川のお役に立つのであれば」とのご厚意から大量の版画の寄贈を受けることになりました。寄贈作品数は、木版などの版画222点、複製画20点（うち1点は織物による複製画）、リトグラフによる画文集「古き町にて」（挿画55図入）2冊、画伯直筆の書4点、祖父東山新吉の肖像画（榎本武揚賛）1幅などであります。版画についていえば画伯の版画285点のうちの約8割に相当いたします。代



「残照」 1947年 第3回日展特選

山下 檜石島へは一度訪れていました。その時の様子を「この島の持つ天国的でもいたくなるような美しい場所へ出ました。私はこの光景をまぶたの奥に大切にしまいこんで山を下りました。」と述べ

山下 檜石島へは一度訪れていました。その時の様子を「この島の持つ天国的でもいたくなるような美しい場所へ出ました。私はこの光景をまぶたの奥に大切にしまいこんで山を下りました。」と述べ



中央：すみ夫人 右：山下館長

# Oh! 茶Gai!

その⑧



この春大学を卒業して、高松市内のアパレル関係の会社に就職したばかりの辻洋子さん。お茶を習い始めたのは大学2年生の時でサークルの先輩に誘われたからだそうですが、もともと「日本文化」や「和の心」に興味があり、さらに抹茶が大好きで「お茶を習えば好きなだけ抹茶が飲める」という下心もあったそうです。音楽も日本のソウルフルな歌声が好きだそうで、「今はプシンが最高」だそうです。

仕事の方でも自分で企画して、お客様に納得して使っていた商品を提案するという企画営業部に所属。熱い心をお客様一人一人に伝えたいと現在猛勉強中だそうです。

「仕事を始めてまだ間がないので、最近は忙しくてなかなかお茶に通えないのが残念」と言う彼女。慣れない仕事のストレスを大好きなお茶で癒すためにも、ぜひ時間を作つて欲しいですね。

## 喫茶居(八)

### 「お寺の接待」



香川県は画伯の作品をお持ちですか。  
山下 「月光」(1998)と「緑渓」(1954)の2点の本制作画を平成12年度に購入いたしました。多くに「月光」は、最後の日展出品作となつたものでございました。日展を舞台に活躍されてこられた画伯の最後の作品が祖先の地である香川県に収蔵されるという何か因縁めいたものを感じます。またこの作品を収蔵するようになります。これまで疎遠だった東山家とも交流できるようになりましてこのたびの作品寄贈へと発展していったもので、当原にとりましてはいろいろな意味で貴重な作品となつております。

いろいろありがとうございました。東山魁夷美術館建設が早く現実化され、私たちに「美しい日本の風景」を再認識させてくれる日を楽しみにしております。

お寺がありました。お参りしたのはきまぐれな春先の寒い日、ボタンを押して熱いお茶をありがとうございました。お寺が寄り合つた門前での接待風景も様変わりして、境内に自動給茶器を備える風習がありました。善根宿的な旅の世話から日常品の差し入れ、茶菓子の振る舞いなど接待も多彩。ご近所が寄り合つた門前での接待風景も様変わりして、境内に自動給茶器を備えます。

この春大学を卒業して、高松市内のアパレル関係の会社に就職したばかりの辻洋子さん。お茶を習い始めたのは大学2年生の時でサークルの先輩に誘われたからだそうですが、もともと「日本文化」や「和の心」に興味があり、さらに抹茶が大好きで「お茶を習えば好きなだけ抹茶が飲める」という下心もあったそうです。音楽も日本のソウルフルな歌声が好きだそうで、「今はプシンが最高」だそうです。

瀬戸大橋のライトグレーの色は画伯がお決めになつた色とか。

山下 そのとおりです。香川県民として是非知つておいてほしいと思います。画伯は、48年10月に環境庁の自然環境保全審議会委員に就任されています。そして架橋の島櫃石島に關係の深い日本画家として瀬戸大橋の色に深くかかわられておられました。

瀬戸大橋のライトグレーの色は画伯がお決めになつた色とか。

【行事予定(六月～八月)】

文化講演会ご案内

「加茂光司氏講演会」

十一年に至るフランス滞在での出会いと感動の短歌やフランス体験を語っていただき、終了後お茶を楽しみながらご歓談下さい。

とき 第一回 「短歌とフランス」  
六月二十六日(火)  
午後六時三十分より

第二回 「フランスと短歌」  
七月二十四日(火)  
午後六時三十分より

主催 財団企画委員会  
プロフィール

一九七九年三月 ジエトロ・パリ・センター所長  
一九八七年三月 ジエトロ・パリ・セントラル次長(産業協力担当)  
一九九七年三月 ジエトロ・パリ・セントラル次長(総務・経理担当)  
一九九九年六月 ジエトロ・リヨン事務所所長  
香川貿易情報センター所長  
加茂光司氏

定員 三十名  
会費 五百円(当日受付)  
講師 日本貿易振興会(ジエトロ)  
香川貿易情報センター所長  
加茂光司氏

著書 第一歌集「往還の春」  
父子歌集「曼珠」(和佛対訳)  
第二歌集「製作中」

趣味 読書(和・英・佛)、美術鑑賞、音楽鑑賞

晴松亭コンサート  
白井美智代マリンバリサイタル  
「数寄屋空間と二台のマリンバ」  
とき 七月二十八日(土)  
席料 第一部 午後二時～四時  
第一部 一日通券 二八〇円  
第二部 第一部 一五〇円  
内容 各四〇名  
八頁参照

お申し込み、お問い合わせは、当財団事務局まで  
☎ (087) 826・3355  
FAX(087) 826・2212

(右頁より続く)

# イベントガイド

## 香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

- 5/26~6/10 第66回香川県美術展覧会  
前期展 9:00~ ●  
6/16~7/1 第66回香川県美術展覧会  
後期展 9:00~ ●  
6/16~7/22 館蔵品による平山郁夫展 9:00~ ●  
7/28~9/2 館蔵品による猪熊弦一郎展 9:00~ ●  
8/4~9/2 絵本原画にみる三好頼也の世界 9:00~ ●

## 香川県県民ホール ☎(087)823-3131

- 6/28 トーク&コンサート 三枝成彰の  
時間「錦織健のタベ」 18:30~ ●  
7/7 山海塾 18:00~ ●  
7/15 第5回能楽鑑賞講座 14:00~ \*

## 玉藻公園管理事務所 ☎(087) 851-1521

- 6/3 英公様追悼游泳祭  
6/10 一茶流・茶庵久松会茶会  
6/17 三葵亭賣茶流高松仙友会茶会  
7/1 菊作り講習会  
8/5 菊作り講習会

## 香川県歴史博物館 ☎(087)822-0002

- 6/9~7/22 「吉伊万里のすべて」展 9:30~ ●

## 高松市美術館 ☎(087) 823-1711

- 6/1~7/1 ポラロイド・コレクション  
アメリカ写真の世紀展 9:30~ ●  
7/27~9/2 日本アニメの飛翔期を探る  
アニメ・カルチャー展 9:30~ ●

## 菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

- 6/9~7/22 菊地寛記念館 第10回文学展  
「山頭火展」 9:00~ ●  
7/1 文学展・記念講演会  
「山頭火と遍路」 14:00~ ■  
6/2 文芸講座  
「放浪の俳人“山頭火”」 13:30~ ■  
7/7 文芸講座  
「野口雨情と高松小唄」 13:30~ ■  
8/8 文芸講座  
「文芸作品に描かれた8月15日」  
13:30~ ■

## 高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

- 8/4~9/16 第27回特別展  
「怪童中西太展（仮称）」 9:00~ ●

## 高松市立市民会館 ☎(087)839-2888

- 6/10 第27回高松市吹奏楽団定期演奏会 14:00~ ●  
6/24 チャリティー映画会  
「エンジェルがとんだ日」の上映  
10:30~・13:00~ ●  
7/1 藤間春元弥一門会 夏おどり 10:00~ ●  
7/7 第34回香川二期会合唱団定期演奏会  
18:30~ ●  
7/8 加藤登紀子コンサート  
2001「Bitth」 18:00~ ●  
7/15 第42回香川県合唱祭 13:00~ ■  
7/18 作家瀬戸内寂聴 文化講演会 18:00~ ★  
7/21 第21回フラウエンコール・かがわ  
定期演奏会 18:30~ ●  
7/26 親子まんが映画会 14:00~ ●

## 高松市教育委員会 ☎(087)839-2636

- 7/21 デリバリー・アーツ オールディーズバンドコンサート  
牟礼町公民館 15:00~ ■  
デリバリー・アーツ オールディーズバンドコンサート  
塩江町ホタル文化の里 野外ステージ 19:00~ ■  
7/26~8/17 バブリックアート高松探検  
サンポート高松周辺 10:00~ ■

## オリーブホール ☎(087)861-0467

- 6/12 Something Else・デューク 18:30~ ●  
7/1 香川大学演劇 EMPTY 19:00~ ●  
7/17 esg・デューク 19:00~ ●  
7/24 ファナティック・クライシス・デューク  
ギャラリー・アコスタージュ ☎(087)841-8200  
6/1~24 西美公二展（水曜休廊） 16:00~ ■

## 三越 ☎(087)825-0784

- 5/29~6/4 音丸淳 漆芸展・音丸耕堂 一門展  
6/5~11 新鋭日本画展 10:00~  
6/12~18 現代洋画10人展 10:00~  
6/19~25 三越美術特選展 10:00~  
6/26~7/2 山本貞 油絵展 10:00~  
7/3~9 夏の版画フェスタ 10:00~  
7/10~16 第6回新工芸家連盟 四国会展  
7/17~23 平田将人・古吉弘 二人展 10:00~  
7/24~30 ゆるぎえぬ主張 4人展 10:00~  
7/31~8/6 生陶衆啓作陶展 10:00~  
8/7~20 期末特別日本画・洋画100選展  
8/21~27 チャリティー小品展 10:00~  
8/28~9/3 相田幸男油絵展 10:00~

## ギャラリー四季 ☎(087)821-9010

- 6/1~30 古川清一写真展 7:30~ ■  
7/1~31 絵手紙展覧会 7:30~ ■  
8/1~15 ひょうげ祭り写真コンテスト展 7:30~ ■

## ヨンデンスラザ高松 ☎(087)851-3863

- 6/1~3 書道展  
6/12~17 サミュゼ第5回展（絵画と写真）  
6/19~24 竹細工の展示

- 6/26~30 第7回研陶酔会作品展（陶芸）

## ストーンミュージアム(石の美術館) ☎(087)871-2200

- 5/1~6/30 第11回 石の彫刻展 9:00~ ●

## 丸亀市文化協会 ☎(0877)24-8826

- 8/13~14 市民盆おどり大会  
丸亀市民ひろば 18:00~ ■

## 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877) 24-7755

- 6/14~7/22 ジョージ・シーガル展 10:00~ ●

- 7/28~9/16 猪熊弦一郎展  
カチナドールの宇宙 10:00~

- 7/28~9/16 野口里佳展 10:00~

## 観音寺市民会館 ☎(0875)23-3939

- 6/10 エンジエライン・ピアノコンサート 9:00~ ■

- 6/23 小学生絵地図コンクール 9:00~ ■

- 7/8 第8回フロイデコンサート発表会 9:00~ ●

- 7/20 天童よしみコンサート 9:00~ ●

- 7/21 劇団飛行船公演 8:00~ ●

- 7/29 グループエルヴェス・ピアノコンサート 9:00~ ●

- 8/1 「不登校・引きこもり等を  
考える講演会」 9:00~ ■

- 8/3 親子まんが映画会 13:00~ ●

- 8/4~5 第3回ジュニア音楽コンクール  
観音寺大会 9:00~ ■

- 8/11 第30回高瀬高校吹奏楽部  
サマーコンサート 9:00~

- 8/12 第6回かんしんマンガ映画大会 9:00~ ■

- 8/13 第40回観一サマーコンサート 9:00~ ■

## 志度町福祉文化振興会 ☎(087)894-1000

- 6/19 「アヴェ・マリア」レギーナ・レン  
ツォーヴァトリオ公演 19:00~ ●

- 7/7 「永遠のランバル」愛弟子たちによ  
るメモリアルコンサート 18:30~ ●

- 8/3 「ポケットモンスター」上映会  
志度音楽ホール 10:30~・13:30~ ●

## 多度津町民会館 ☎(0877)33-3330

- 6/24 名画鑑賞会  
(うず潮・二十四の瞳・少林寺拳法)  
10:00~ ●

- 7/1 第11回七夕カラオケコンサート 10:00~ ■

- 8/3 たどつ夏まつり前夜祭 19:00~ ■

## 仁尾町文化協会 ☎(0875)82-5109

- 6/24 吟剣詩舞道西譜連盟 出場者予選大会  
山本町農村環境改善センター

- 8/4 仁尾竜まつり 踊り参加 舞踊部  
仁尾浜役場周辺

- 8/12~16 第5回仁尾町文化協会美術部合同展  
役場町民ギャラリー 9:00~

- 8/19 吟詠剣詩舞選手権大会（賀城流）  
高瀬町農村環境改善センター

## 飯山町教育委員会 ☎(0877)98-7961

- 7/2~12 清風会作品展 庁舎分館 8:30~ ■

## 町立塩江美術館 ☎(087)893-1800

- \*企画展

- 6/5~17 第7回ほたるの里しおのえフォト  
コンテスト作品展 9:00~●

- 7/17~8/5 アトリエから飛び出した作品展 9:00~●

- 8/7~9/2 国際子ども秀作絵画展 9:00~●

- \*コンサート

- 6/10 ホタルの里ミュージアムコンサート  
14:00~●

- 6/16 箏と尺八の集い／～和のひびき～  
14:30~ ■

## とらまる座(大内人形劇場) ☎(0879)25-0400

- 6/9 人形劇団あぼ 虹色のファンファーレ  
13:30~ ●

- 6/10 人形劇団あぼ 虹色のファンファーレ  
10:30~・13:30~ ●

- 7/20~21 あ・ぶ・ぶ@人形劇場 13:30~●

- 7/22 あ・ぶ・ぶ@人形劇場 10:30~・13:30~●

- 7/28~29 夏休み人形劇祭  
～香川県内アマチュア劇団～ 13:30~●

- 8/11~13~14 人形劇団パン 影絵でお話  
「かさじぞう」他2本 13:30~●

- 8/12 人形劇団パン 影絵でお話  
「かさじぞう」他2本 10:30~・13:30~●

## 灸まん美術館 ☎(0877)75-3000

- 6/1~5 第3回遊ばう展 9:00~ ■

- 6/8~12 勝賀瀬 寛 窯出し展 9:00~ ■

- 6/15~19 尾崎正則 ペン画展 9:00~ ■

- 6/22~26 写団光影 写真展 9:00~ ■

- 6/29~7/3 豊田 威 水彩画展 9:00~ ■

- 7/6~10 細川政廣 洋画展 9:00~ ■

- 7/20~24 三好厚男 作陶展 9:00~ ■

- 7/27~31 久保 聖 ガラスエッティング展 9:00~ ■

- 8/3~7 版画 グループ展 9:00~ ■

- 8/10~20 CREATION WAVEO 1 9:00~ ■

- 8/24~29 「いいお顔」写真展 9:00~ ■

- 8/31~9/4 宮松 敏 作陶展 9:00~ ■

## あーとらんど ギャラリー ☎(0877)24-0927

- \*絵画コーナー

- 6/23~7/15 割石ヒロミ展 10:00~ ■

- 7/28~8/26 2001 様々な邂逅展  
(8/10~8/16休廊) 10:00~ ■

- \*工芸コーナー

- 6/13~7/1 蔵珍窯 彩りの器展 10:00~ ■

- 7/5~22 泥華窯 萩焼展 10:00~ ■

- 7/28~8/26 素晴らしい出会い展  
(8/10~8/16休廊) 10:00~ ■

# 茶 華 道 ガ イ ド

表千家同門会香川県支部

☎(087)874-0458

7/9 表千家流四季茶会

本覚寺別院 9:00~ ●

裏千家淡交会高松支部

☎(087)865-7150

6/3 月釜 席主 高原宗知 天神会館 9:00~ ●

宮崎宗靜 天神会館 9:00~ ●

7/1 月釜 席主 河瀬宗知 天神会館 9:00~ ●

8/5 月釜 席主 久保宗美 天神会館 9:00~ ●

武者小路千家 香川官休会

☎(087)851-2258

6/3 月釜 席主：原 美恵子 本覚寺 9:00~ ●

7/1 月釜 席主：井上 玲子 本覚寺 9:00~ ●

8/5 月釜 席主：手塚 常子 本覚寺 9:00~ ●

武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

7/1 第8回香川大学学生釜（ゆかた茶会）

中條文化振興財団 9:00~ ●

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。（記号表示は判明したもののみ）

上記予定は変更する場合もあります。

## 友の会（晴友会）第Ⅳ期のご案内

当財団は、讃岐・香川の地が豊かで限りなく息づいている「ふるさと」であることを願うものです。

文化にも幅広いジャンルがあります。いろいろな文化を楽しめている方々、また楽しみたいと思っている方々、そんな仲間を募っています。

【対象期間】平成13年4月1日～平成14年3月31日

【年会費】3,000円

### 【特典】

- 当財団情報機関紙「文化通心」年4回発行の郵送
- 当財団関連の催し物のご案内
- 年1～2回の友の会交流会の実施

※申込み方法など詳しいことは当財団事務局までお問い合わせ下さい。

## 樂美術館ガイド（京都）

### 樂歴代

#### —樂家に伝わった茶碗—

2001年4月24日(火)～7月8日(日)

開館時間：午前10時～午後4時30分（月曜休館）

#### ■特別鑑賞茶会

美術館の茶室で収蔵作品を使っての茶会です。

席主は当代 吉左衛門。

開催日 6月10日(日)・7月8日(日)

※開催1ヶ月前より電話を受け付けます。

TEL 075-414-0304

#### ■7月以降の予定

「樂焼創成・樂って何！」（仮称）

第1部 樂焼のルーツと技法をさぐる。

7月20日(金)～9月24日(月)

#### 講演と夕食会

8月5日(日) 於ブライトンホテル

思い入れの裂やお好みの布で、手づくりの贅沢をお楽しみになりませんか。出帛紗や数寄屋袋等自分で作れたらとお考えの方々に絶好のチャンス。好評を頂いた前回に続き、リクエストにお応えして再度開講いたします。



永井百合子先生プロフィール  
東京表参道にアトリエを構え、袋物教室を開講。美術館所蔵品の仕覆制作や花結びの指導。NHKテレビ「おしゃれ工房」に出演。談交社「なごみ」に執筆される等多方面でご活躍です。

人 数	講 師 時	参 加 費	材 料 費
十名で〆切りといたします。	平成十三年六月十二日(火) 祭日	表・裏布地持参可 未知草会主宰 永井百合子先生 受講料 五千円	実費

財団事務所まで六月十日迄にお申込下さい。

## 茶道具の裂と袋物講座

# 臼杵美智代マリンバリサイタル ～数寄屋空間と一台のマリンバ～



か経験してまいりました。比較的大きな楽器のマリンバのデュオを小さな空間で真近に聞けるチャンスはめったにありません。皆様もどうぞこの機会にお見のがしくご参加下さい。

当日は、ティータイムをはさんで一部と二部でプログラムが替わります。また、終了後は演奏者とのご歓談の機会もございますので、午後のひとときをゆっくりお楽しみ下さい。なお、一部・二部単独のご参加も可能です。

なお、お申し込みにつきましては五頁の行事予定をご参照下さい。

7月28日(土)  
第一部 14時  
第二部 16時

高瀬町出身の臼杵美智代さんはサヌカイトの演奏で香川県内でも演奏される機会が多くご存知の方も多いと思います。打楽器を軸として多彩な活動をされている臼杵さんの出発点は「マリンバ」だそうです。

昨年は春にサヌカイトの、秋にはマリンバのリサイタルを東京オペラシティ・リサイタルホールと、香川県民ホール（アクトホール）で各々行なわれ、大成功を收められました。また、精力的な演奏活動もさることながら昨年4月よりくらしき作陽大学の講師をされ、後進の指導も始められたそうです。

今回、当財団茶室「晴松亭」で行なわれる演奏会では、同大学を卒業され、第六回K OBE国際学生音楽コンクールで優秀賞を得られた、弟子の松崎浩太郎と共に、マリンバDUOを特別に企画して頂きました。

二台のマリンバから繰り出されるサウンドがどのようなものなのか想像できませんが、コンサートホールとは違う数寄屋空間では、演奏者が演奏しながら自ら聞く音と客席で聞く音がかなり近いのでより深く感動を共感できるというのを、これまで何度も



協力 演奏 白杵美智代／松崎浩太郎  
主催 岡田 寛  
財団企画委員

## プログラム

- ● お江戸日本橋 ..... 横山青児編曲
- すいすいすつこころばし ..... 横山青児編曲
- イギリス民謡より ..... 秋岸寛久編曲
- 一一台のマリンバの為の一ディベルティメント ..... 横山青児作曲

## プロフィール

### 臼杵美智代 (うすき みちよ)

1965年 香川県高瀬町生まれ。  
1980年 香川県立坂出高等学校音楽科に声楽専攻で入学するが、来県した安倍圭子氏の演奏に魅せられマリンバをはじめる。  
1983年 同校卒業、マリンバで桐朋学園大学音楽学部入学。  
1987年 桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。  
1988年 第4回打楽器新人演奏会出演。宮脇聟子氏と出会い、サヌカイトの演奏を始める。香川室内合奏規とマリンバ協奏曲を共演。  
1989年 桐朋学園大学研究科修了。FM香川にて県政スポットのテーマ曲をサヌカイトで録音、毎土曜日放送される。  
1990年 三木稔氏が主宰するオペラシアター「歌座」の常連演奏家になり、「うたよみざる…芸術祭受賞…」に参加。志度音楽ホール「ふるさとリサイタルシリーズ」出演。香川芸術フェスで柴田玲子「ピアノとサヌカイトの為の組曲」を初演。  
1991年 日本音楽集団に邦楽打楽器で入団。日本民族舞踊団中南米公演に参加。准川英雄氏（坂出市在住）と、シンセサイザーとサヌカイトのジョイント・コンサートを始める。  
1993年 結アンサンブル香港公演参加。市川猿之助スーパー歌舞伎「八犬伝」音楽録音に参加。  
1994年 日本音楽集団オーストラリア・アーレードフェスティバル公演(3月)およびアメリカ公演(10月)に参加。ユニーク・フルと三木稔「急の曲」を共演。二十芸術事務所、山田英美氏とマリンバジョイントリサイタルを開く。  
1996年 CD(磐石・サヌカイト)をリリース。第41回日本音楽集団定期演奏会における秋岸寛久と讀鑑玲の初演にサヌカイトで出演。  
1997年 結アンサンブル上海公演に参加。「上海の音楽祭」にて三木稔「マリンバ・スピリチュアル」を演奏。市川猿之助スーパー歌舞伎「オオクニヌシ」音楽録音に参加。  
1998年 NHKの番組「どんごとい民謡」「3つの海を結ぶ道」「ホリーテンコンサート」また、国民文化祭がけわ「97オーブニングフェスティバル」にマリンバで出演。平成10年度文化庁芸芸インセンティブ研修員として邦楽電子「鳥ノ路(そら)」の初演にサヌカイトで出演。  
1999年 日本音楽集団アメリカ公演に参加。NHK-B5「おーいニッポン」、今日はとことん香川県にサヌカイトで出演。NHK教育「トウトゥアンサンブル・日本のリズム」に出演。オーラー公演における佐藤容子「鳥ノ路(そら)」の初演にサヌカイトで出演。  
2000年 東京と香川で3月に「サヌカイトリサイタル」を、11月に「マリンバリサイタル」を開催。NHK国際ラジオ番組「国際ふるさとだより」等に出演。

マリンバを安倍圭子、上田邦子の両氏に、打楽器を小林美隆氏に、邦楽電子を藤倉華鳳氏にそれぞれ師事。

現在、日本音楽集団団員、三木稔主宰オペラシアター「歌座」および「結アンサンブル」のメンバーのほか、環境音楽の長屋和哉氏とユニットを構成し、サヌカイトを中心としてコンサートという形式を超えた「音空間の創出」をテーマに活動をすると、洋楽、邦楽を問わず幅広い演奏活動を行っている。2000年よりくらしき作陽大学音楽学部非常勤講師。

### 松崎浩太郎 (まつざき こうたろう)

- ・兵庫県立龍野高等学校卒業
- ・作陽短期大学音楽科打楽器専攻卒業
- ・平成10年度作陽短期大学卒業演奏会出演
- ・くらしき作陽大学音楽学部打楽器専攻卒業
- ・平成12年度くらしき作陽大学卒業演奏会出演
- ・在学時に姫路市新人演奏会にマリンバで出演
- ・第6回KOBE国際学生音楽コンクールにて、優秀賞・神戸市民文化振興財団賞・タカラシバーナ賞を受賞
- ・第6回浜松国際管楽器アカデミーにて、安倍圭子氏にマリンバを師事
- ・打楽器全般を今村三明・山下武・マリンバを臼杵美智代・平松敦子の各氏に師事

## 編集後記

『花の季節』が終わらないうちにマスクミは『政治の季節』到来と紙面を賑わした。季節とは本来、四季の謂であつたはずだが、このごろでは広い意味に用いられることが多くなつたらしい。それに続く秋は、さしづめ『文化の季節』ということだろうか。各地で文化祭とか各種の文化的行事が数多く開催されている。その中に、当財団ではささやかだがそれまでの地域文化の向上・発展に貢献された団体や個人の方に財団賞を、また育成過程にある団体などには助成金を贈つてきたが、それらの団体やサークルの方たちが、この時期非常に活躍をされ多くの人から共感を得たり賞賛を浴びているのを見聞きすると大きな喜びを感じる。

今後とも、この事業を強力に継続していくかなければの思いはいつそう強まる。どうか財団賞、助成制度に多くの方たちが手を挙げていただくなるを、切にお待ちしている次第である。

財団賞は香川県内の各市町村教育委員会及び当財団の理事及び評議員の推薦を受けられた方の中より選出致しております。平成十三年度の応募の〆切りは7月末日です。適当と思われる方をご存知でしたらご紹介下さい。詳細は事務局まで。発表は10月初旬です。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017  
高松市番町二丁目一一一二  
(財)中條文化振興財団編集部  
TEL(087)826-3355  
FAX(087)826-2212